優れた技術・製品を国内大手メーカーや海外企業につなぐJ-GoodTech(ジェグテック)

座談会

出席者
平安製作所　取締役会長
荒木 邦彦さん
京都高度技術研究所(アステム)
経営・新事業創出支援本部長
孝本 浩基さん

聞き手
中小企業基盤整備機構
近畿本部　経営支援課長
樋口 光生

中小機構(独立行政法人中小企業基盤整備機構)は、国内の中小企業が持つ優れた技術や製品を、必要とする大手メーカーへつなぐ「J-GoodTech(ジェグテック)」を開設しました。そこで、現代のものづくりにおける課題やニーズ、今後の展望などを、ジェグテック参加企業の荒木邦彦会長と地元で支援する孝本浩基本部長に語り合っていただきました。

大手や海外との円滑なコーディネートを

樋口　平安製作所は自動車部品の製造がメーンですが、現在の課題は？

荒木　国内での自動車生産台数は縮小傾向にあるため、海外進出が増えています。しかし、新興国も現地企業を育てる政策を考えているため、やがて現地に進出した日本企業は厳しい経営を強いられることになります。とはいえ日本の高い技術レベルは認められ、自国企業を育成するために必要とされているので、今後はライセンス契約による技術支援や技術・ノウハウで勝負せねばなりません。

荒木 邦彦さん

樋口　そのためには、どんな取り組みを行っていますか。

荒木　技術を提供してロイヤリティをいただく。その繰り返しで利益を上げます。また、単独の会社では対応できないニーズも増えつつあるため日本国内の優れた技術力のある中小企業の技術開発網を拡充し、国内の高度な技術ネットワークで取り組むことです。

樋口　国内の大手メーカーからは、中小企業が互いの得意技術を持ち寄り、良いものを作ってほしいという要望があります。例えばユニット化、モジュール化することなどが考えられます。

孝本　オープンイノベーションが流行していますが、これもチャンスです。高い技術を持つ中小企業が連携することで、新しい価値の創造ができます。

孝本 浩基さん

荒木　京都では同業各社が連携してアステムに支援してもらい、画期的な新工法を開発しコストを下げて良いものを作るというニーズに応えています。ただ、各企業にまだ温度差があるので、その解消が課題です。

樋口　アステムのような、地元の公的機関の役割はどう思われますか？

荒木　連携で最も難しいのは、お互いの利害関係をどう調整するか、これは連携内で解決しにくい課題です。また、どこかがリードしなければ事業は進みません。集まるだけではまとめ役がいないのです。そこで、アステムのような機関が頼りになります。各社とも「アステムが言ってくれるならやる」というスタンスです。

孝本　アステムは中小企業に対する総合的な支援を行い、京都市内の中小企業の振興や地域経済の活性化を図るために設立されましたが、近年は広域での支援ニーズも強まっています。そこで「近畿中小企業連携プロジェクト」を形成しました。中小機構の協力を得て、産業界の課題やニーズに応じた中小企業の連携体を構築しています。

樋口　大手のニーズ対応型の連携提案ですね。この試みには大手企業のニーズと中小企業のシーズをつなぐジェグテックの機能を生かしていただけると思います。

荒木　ジェグテックは、既存の関係ではできないことをやっていこうとするシステムです。もっと多くの大手企業、中小企業にジェグテックを広め各都道府県の支援機関と協働でこのシステムを育てていかねばなりません。

樋口　個別企業でできなかったことがやれる、大手企業が求める技術を発見できるツールとして使ってもらえるように、存在を多方面へアピールしないといけませんね。

孝本　いかに大手企業のニーズをきちっと捉えられるか。川下企業が目指す技術課題と、中小企業とのギャップを埋める努力も必要です。私たち支援機関としても、大手企業のニーズに対応していく企業連携のコーディネートをもっと考えていきます。

樋口　ものづくり企業の連携で、今後の抱負は？

荒木　国内だけで夢をかなえるのは難しいので、海外へ日本の技術を売り込み、浸透させたい。

孝本　日本を元気にするためには、ベンチャー企業や中小企業が元気にならねばなりません。しかし国の政策を待っていては遅いのです。連携体も、同業種だけから異業種にまで広げれば、もっと大きなことができるようになるはずです。そういう形をつくっていきたいと考えています。

荒木　孝本さんが言うような思いでスタートしたにもかかわらず、同調してくれる企業が少なかったのです。我々は他業種の専門知識がないため、コーディネートに期待しています。

樋口　私たちには、ニーズとシーズをうまくマッチングさせるコーディネート力が求められていますね。京都では事業をリードする企業と、アステムの関係がうまく働いたので成果を上げつつあります。中小機構単独では支援しきれないですし、ジェグテックも地域の機関・企業の連携なくしては真に活用できるシステムになり得ません。中小企業の技術が大手企業に採用され、海外へも打って出るための仕組みづくりと、そのアピールにこれからも努力します。

樋口 光生

ジェグテックの概要

募集対象企業

優れた技術・製品を有し、販路開拓に意欲的なものづくり中小企業(※)

※製造業、ソフトウェア業、情報処理サービス業で資本金3億円以下または従業員300人以下、サービス業で資本金5千万円以下または従業員100人以下の企業のことです。

J-GoodTech(ジェグテック)とは、ニッチ(特定分野)トップやオンリーワンなどの優れた技術・製品を有する中小企業の情報をウェブサイトに掲載し、国内大手メーカーや海外企業につなぐマッチングサイト。

株式会社平安製作所／1939年創立。主にエンジン・トランスミッション部品、板金プレス・溶接・組立・塗装などの加工を一貫して行っている。
財団法人京都高度技術研究所(アステム)／1980年開所。中小企業に対する総合的な支援を行い、中小企業の振興と地域経済の活性化に取り組んでいる。
中小機構近畿／近畿2府4県を対象エリアに国の中小企業施策を総合的に実施している。

独立行政法人　中小企業基盤整備機構
中小機構 近畿
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング27階
お問い合わせ TEL 06-6264-8611　ジェグテック　検索

企画・制作＝京都新聞COM